

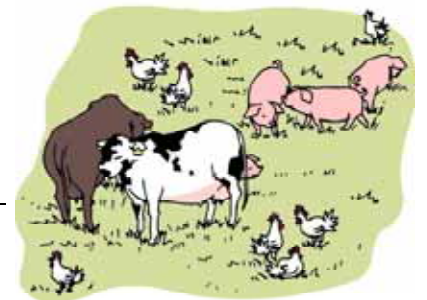
平成18年6月8日公表

畜産統計（平成18年2月1日現在） （大分県）

【調査結果の概要】

1 乳用牛の飼養戸数は267戸で、前年に比べて12戸（4.3%）減少しました。

また、飼養頭数は1万8,300頭で、前年に比べ100頭（0.5%）減少しました。



2 肉用牛の飼養戸数は2,530戸で、前年に比べ50戸（1.9%）減少しました。

また、飼養頭数は6万3,800頭で、前年に比べ2,300頭（3.5%）減少しました。

3 豚の飼養戸数は92戸で、平成16年2月1日現在（以下「前回」という。）に比べ10戸（9.8%）減少しました。

また、飼養頭数は14万9,000頭で、前回に比べ1万4,500頭（10.8%）増加しました。

4 採卵鶏の飼養戸数は50戸で、前回に比べ8戸（13.8%）減少しました。

また、飼養羽数は175万7,000羽で、前回に比べ22万8,000羽（11.5%）減少しました。

豚及び採卵鶏の調査は、平成17年は農林業センサスの実施年であることから、調査を休止しています。

畜種別の飼養戸数・飼養頭羽数

単位 { 戸数 : 戸
頭(羽)数 : 頭(千羽)
比 率 : %

畜 種	飼 養 戸 数	飼 養 頭 数	1 戸 当 た り 頭 羽 数	対 前 年 比		
				飼 養 戸 数	飼 養 頭 数	1 戸 当 た り 頭 羽 数
乳 用 牛	267	18 300	68.5	95.7	99.5	103.9
肉 用 牛	2 530	63 800	25.2	98.1	96.5	98.4
豚	92	149 000	1619.6	90.2	110.8	122.8
採 卵 鶏	50	1 757	26.5	86.2	84.8	98.5

注：採卵鶏は、種鶏のみの飼養者及び成鶏めす羽数千羽未満の飼養者を除きます。

また、採卵鶏の飼養羽数の対前回比は、成鶏めす飼養羽数での前回比率を表しています。

【解説】

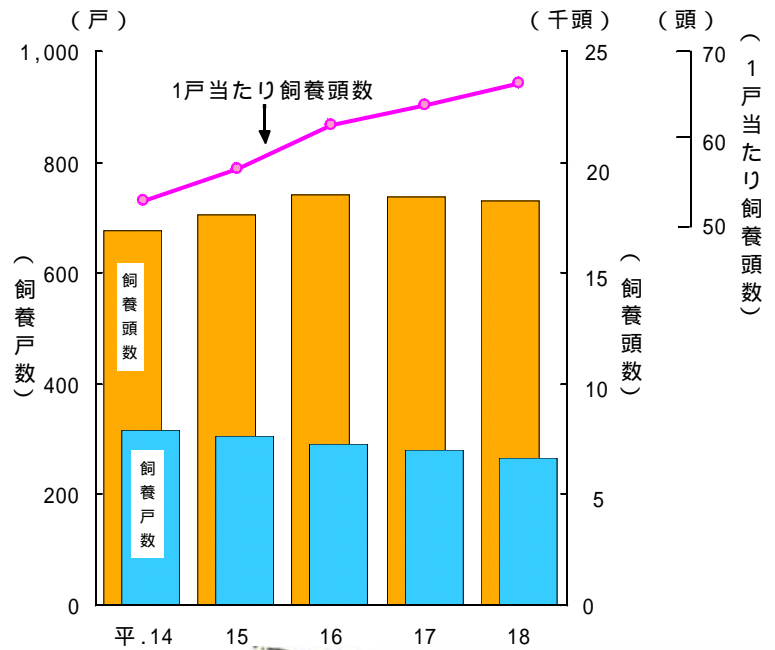
1 乳用牛

平成18年2月1日現在(以下、各畜種とも同じ。)の飼養戸数は、前年に比べ12戸(4.3%)減少し267戸でした。これは、飼養者の高齢化により、小規模飼養者を中心に飼養中止があったためです。

また、飼養頭数は、小規模飼養者の飼養中止等により、前年に比べ100頭(0.5%)減少し1万8,300頭となりました。

この結果、1戸当たり飼養頭数は前年の65.9頭に比べ3.9%増加し68.5頭となりました。

乳用牛の飼養戸数・頭数の推移



2 肉用牛

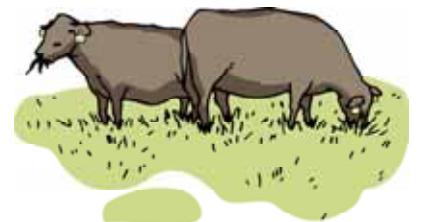
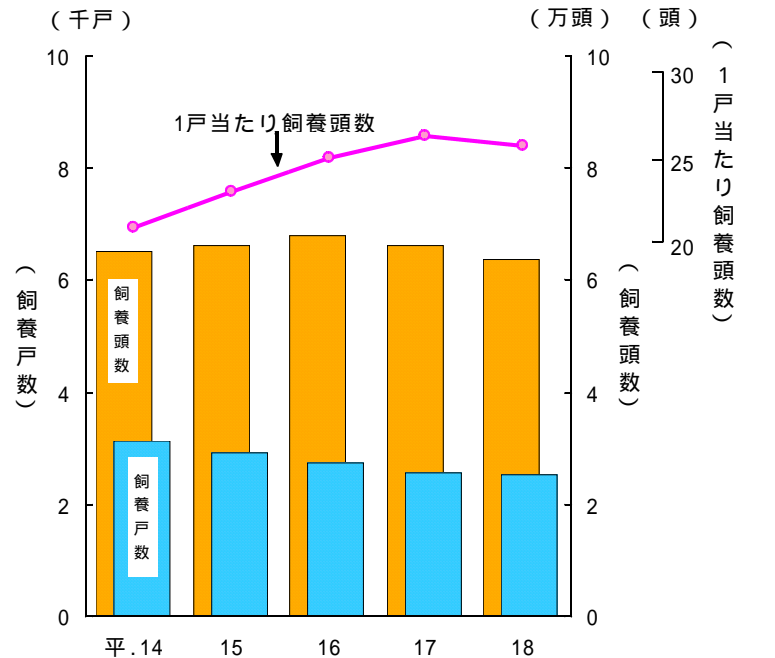
肉用牛の飼養戸数は、前年に比べ50戸(1.9%)減少し2,530戸でした。

これは、飼養者の高齢化による労力不足等により小規模飼養者を中心に飼養中止があったためです。

また、飼養頭数は、飼養中止した生産者の中に、大規模飼養者も含まれていたことから、前年に比べ2,300頭(3.5%)減少し6万3,800頭となりました。

この結果、1戸当たり飼養頭数は前年の25.6頭に比べ1.6%減少し25.2頭となりました。

肉用牛の飼養戸数・頭数の推移



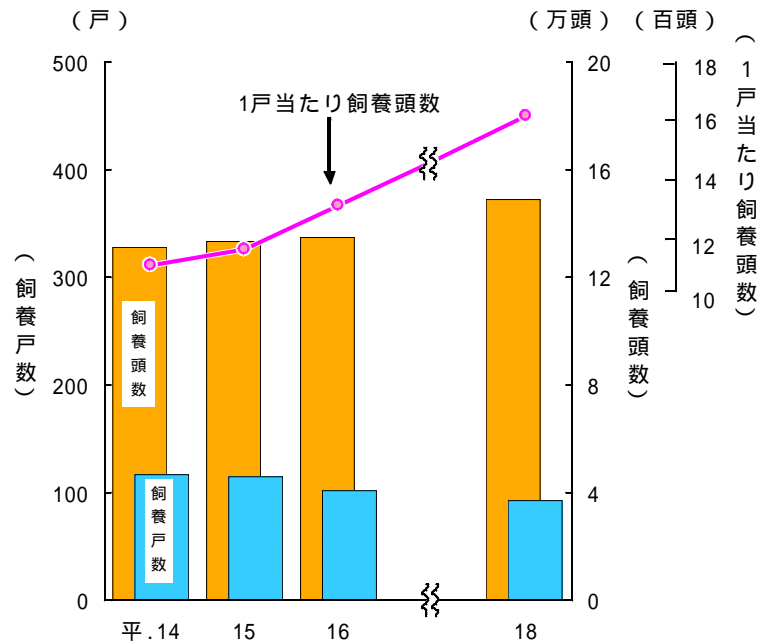
3 豚

豚の飼養戸数は、前回に比べ10戸(9.8%)減少し92戸でした。これは、飼養者の高齢化により小規模飼養者を中心に飼養中止が依然として続いているためです。

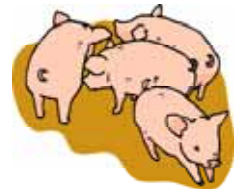
一方、飼養頭数は、小規模飼養者の飼養中止による減少があるものの、一部の大規模飼養者の規模拡大が図られたことから、前回に比べ1万4,500頭(10.8%)増加し14万9,000頭となりました。

この結果、1戸当たり飼養頭数は前回の1,318.6頭に比べ22.8%と増加し1,619.6頭となりました。

豚の飼養戸数・頭数の推移



注) 平成17年は農林業センサスの実施年で、調査を休止しています。



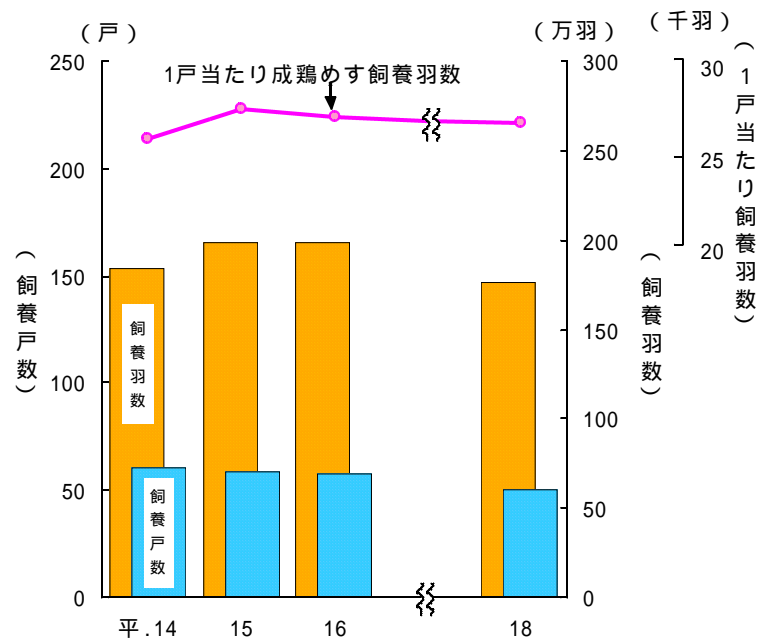
4 採卵鶏

採卵鶏の飼養戸数は、前回に比べ8戸(13.8%)減少し50戸でした。

また、飼養羽数は、小規模飼養者を中心に高齢化による飼養中止があり、前回に比べ22万8,000羽(11.5%)減少し175万7,000羽となりました。

この結果、1戸当たり成鶏めす飼養羽数は前回の2万6,900羽に比べ1.5%減少し2万6,500羽となりました。

採卵鶏の飼養戸数・羽数の推移



注) 平成17年は農林業センサスの実施年で、調査を休止しています。



【調査の仕様】

1 調査の目的

この調査は、主要家畜に関する規模別・経営タイプ別飼養戸数及び状態別飼養頭羽数等を把握し、畜産生産の現況を明らかにするとともに、飼養動向を予測するための事項を取りまとめ、畜産行政における施策の策定等に資料を提供することを目的としています。

2 調査の対象

この調査は、全国の乳用牛飼養者、肉用牛飼養者、豚飼養者及び採卵鶏飼養者（成鶏めす1千羽未満の飼養者を除く。）を対象に調査を行っています。

なお、飼養者が複数の畜種を飼養している場合は、それぞれの畜種別に調査の対象としました。

3 調査期日

平成18年2月1日

4 調査方法

調査は、飼養者を学校等の非営利団体とそれ以外の飼養者（以下、「一般飼養者」といいます。）に分け、一般飼養者は標本調査、学校等の非営利団体については全数調査により実施しました。

なお、乳用牛及び肉用牛の一般飼養者の調査客体については、調査員による面接聞き取り調査、それ以外の調査客体については郵送調査を行いました。

また、乳用牛調査及び肉用牛調査における飼養頭数等は、牛個体識別システム（全国の全ての牛に対して付けられた固有番号により、各個体の生産・移動情報を管理するシステム（家畜改良センター））のデータを利用することにより、把握しています。

この資料の数値は概数であり、確定値は追って農林水産省統計部が刊行する『平成18年畜産統計』に掲載します。

問い合わせ先

本統計調査結果について
連絡先：九州農政局大分農政事務所統計部
生産流通消費統計課 流通消費統計第1係
TEL 097-532-6196 FAX 097-538-1820

農林水産統計全般について
連絡先：九州農政局大分農政事務所統計
統計企画課 企画係
TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820